きべりはむし

第13巻　第2号

目　　　次

アカマダラコガネについて	髙橋　寿郎	29
宝塚大橋の照明燈で採集した蛾（続報その４）	新家　　勝	36
明石市でヒメタイコウチ見つかる	三宅　隆三	40
ヒメタイコウチの分布域と生態に関する文献	三宅　隆三	40
ヨコヅナサシガメ，ヨツボシケシキスイを捕食す	新家　　勝	44
宝塚でのトンボ５種の採集および目撃記録	新家　　勝	44
アオドウガネの食草についての報告	新家　　勝	46
三木市でのアオマダラタマムシの採集	森田　真澄	46
コカブトムシを神戸市多井畑で採集	内田　雅一	47
ツノブトホソエンマムシ神戸市内で採集	髙橋　寿郎	47
兵庫県におけるセスジナガキマワリの分布	髙橋　寿郎	48
キイロテントウゴミムシダマシ美嚢郡吉川町にて採集	髙橋　寿郎	49
県関係文献紹介		49
会　員　異　動		51

兵　庫　昆　虫　同　好　会

１９８５年１１月

アカマダラコガネ について*

高橋寿郎

アカマダラコガネ Poecilophilides rusticola(Burmeister) を始めて採集した時は妙なコガネムシだなアと感心したものである。それ程眼を見張るような美しさもない渋味な虫である。たゞジックリと見ていると仲々ユニークな斑紋をしていて捨て難い虫でもある。全国的に見ても広く分布しているが、それ程個体数の多い種ではないようだ(最近山梨県韮崎にて非常に多くクヌギに集っていた報告がある。月刊むし, No.175,1985)。たゞ日本産コガネムシとしては大変古く学名が与えられた種で古くから知られていた虫のようであるが渋味な色彩のためか本日まで余り話題にものぼらないまゝきてしまった虫のようでもある。自然開発がすゝむに従い神戸あたり市内で採集出来ていたものが次第に姿を消してゆきつゝあるようにも思われなんだか人の眼の前から次第に遠ざかってゆく虫のようで淋しくもある。そこでこの虫に関して手許の標本とか資料で雑文をまとめて見ることにした。

まづ本種は1842年 H. Burmeister がHandbuch der Entomologie, Band. Ⅲ, Berlinの p. 624 にAnthracophora rusticola として Japan を産地に記載された種である。

1875年にはWaterhouseは"On the Lamellicorn Coleoptera of Japan"の中で(Trans. Ent. Soc. part. 1, p. 114)種名のみを記していて産地はJapanとしている。記載は無い。

1878年のE. v. Harold の"Beiträge zur Käferfauna von Japan (Viertes Stück)" (Deut. Ent. Zeit. XXII, Heft. 1, p. 72)の中でも種名のみが出ている。

1886年 Kolbe, H. J. は"Beitrage zur Kenntnis der Coleoptera-Fauna Korea" (Arch. f. Naturg. 52: 196) の中で本種を記録している。分布に北支, 日本とアスコルド島(Is. Askold)としてGottsche博士がソウルの旅で傷ついた栗の樹から発見したと記している。同時にA. sinensis Saunder は本種と同一種であるとの見解をのべている。

アカマダラコガネ Poecilophilides rusticola (Burmeister)

1887年 G. Lewis の"A Catalogue of Coleo-

*兵庫県甲虫相資料. 152

きべりはむし Vol. 13. No.2, p. 29－36, 1985

ptera from the Japanese Archipelago〃の中でも種名のみで産地の記入は全くない(p.14, №1024)。

1887年 G. Lewisは〃On the Cetoniidae of Japan, with Notes of new Species, Synonyny and Localities〃(Ann. Mag. Nat. Hist. xix(5): 199)で〃This species is common in Kiushiu, but has not yet been observed north of Kioto〃と書いている。同時にA. rama Bainbridge, 1842. A. sinensis Saunders, 1852も同一種に扱っている。

同じ年Schönfeldt, H. v. が発表した〃Catalog der Coleopteren von Japan mit Angabe der bezuglichen Bescheibungen und der sicher bekannten Fudorte〃(Jahrb. d. nass. Ver. f. Naturhunde 40: 111)の中で本種の産地を〃Tokio〃としている。Lewis はその時点で京都以北の分布を知らないとしているがSchönfeldt のTokioは誰の採集品だったのか知らないが，このあたり迄分布が知られていたことになる。尚sinensisは同一種に扱っている。

Kraatzは1898年にCetonia delmanni Hope(1831)をタイプ種としてAnthracophora属の1部から別けてPoecilophilides属を創設された(Deutsche Ent. Zeitschr: 406)。日本産のアカマダラコガネもその後両方の属名が使用されていたが現在ではPoecilophilides属として扱われている。台湾に産するクロチャマダラハナムグリ Anthracophora curcifera Olivier と比べて見ると体表の色彩はとも角として中胸突起がクロチャマダラハナムグリは僅かに突出している程度であるが，アカマダラコガネは腹面が真っ黒なのに対して中胸突起は黄褐にして光沢を有し円形で良く突出している点は大きな相違点である。

同じ年(1898) Reitter, E. は Best.-Tab. Melol. II, Theil. XXXVIII., Heft. p. 78 に Anthracophora属で記録している。

1906年 松村松年博士は日本千虫図解第三, p.96. pl. 48. fig.13♀に図説された之が日本人による本種の始めての図説になると考えられる。

1921年のS. SchenklingによるColeop. Cat. W. Junk (72) Scarabaeidae: Cetoninae p.268においてはPoecilophilides属の種として分布にJapan, Korea, Askold, Chinaを掲げてある。こゝでもrama, sinensis共に同一種に扱っている。

1922年に新島善直，木下栄次郎両博士によって〃こがねむし＝関スル研究報告(第二)〃(北大演習林研究報告Vol.2, №2, p. 164, pl. V, f. 1)に始めて詳しい記載をされた。その時点の産地としては従来の外国文献からの引用〃Japan, Korea, Amurgebiet, Daurien bis zur Mongolei〃に加えて本州，九州，東京を示されている。

1924年には岡本半次郎博士は〃The Insect Fauna of Quelpart Island〃(Bull.

Agr. Exp. Stat. Gov. Chosen 1(2): 179)の中で本種について〃One specimen taken by C. Inoue. Common in Corea and Japan proper (Honshu and Kiushiu), and found also in North-China and on the Amur (Kolbe and Heyden)〃と記しておられる。sinensisも同一種と取扱っている。

1930, 1940年代の各種代表的図鑑には全部図説されている。即ち神谷一男, 安立綱光, 原色甲虫図譜, 1933, pl.52, f.8., 加藤正世, 分類原色日本昆虫図鑑 第八輯, 1933, pl.13, f.7., 平山修次郎, 原色千種続昆虫図譜, 1937, pl, 64, f. 2, p. 135(図説は東京芝産), 原色甲虫図譜, 1940, pl, 23, f. 2, p. 56. いづれも分布に四国が入っていない。

1933年 加藤正世博士により菊池氏採集の満洲産アカマダラコガネが原色で図説された(昆虫界, vol. 1, №1, pl.1., この図で見る限りでは日本産と同じ様な斑紋を呈している)。

1934年に同博士は再びカラーで図説(昆虫界, vol. 2, №7, pl. 46, f. 10)〃樹液に集まる種類であるが極めて少い。筆者は東京市内で二回採集した。何れも秋である。〃と記しておられる。分布にやはり四国が無い。同博士は同じ昆虫界(Vol. 3, № 18/19, p. 342-349, 1935)誌上に〃主要金亀子科の分類(4)〃を発表されたが其処でも分布に四国は無い。

1937年 新島善直, 木下栄次郎両博士は〃熱河省産昆虫類(Ⅶ)〃の中で(p. 13-14, pl, 3, f. 1)美しい図をつけて記載しておられる。そして分布に五分溝を産地に北支那「アムール」地方「ダウリア」, 蒙古, 朝鮮, 日本を分布に掲げている。

1938年には福井県博物学会が原色福井県昆虫図譜を発刊この中でカラーで県丹生郡朝日村産の標本を図示された(pl. 9, f. 10)。同じ年 加藤博士は〃武蔵野昆虫誌〃を発表されたが, この中では本種の分布に四国は入っているし台湾も入っている。

1939年には三輪勇四郎. 中條道夫両博士の〃日本産鞘翅目分類目録, 金亀子虫科〃が出版された。この中での分布は四国も台湾も入っていない。

1949年 沢田玄正博士は台中州北抗産1♀をもって本種が台湾に産することを記録された(関西昆虫学会々報 Vol. 14, №2, p. 71 72)。実は台湾を分布地に掲げてあるのは前にもあった(加藤, 1933, 1934, 1938. 平山, 1937, 1940)。これ等が確実な標本に基づいて分布を記録してあったのかどうかは良くわからないが本種が台湾に分布していることは一応正式には出たわけであるが最近になっても台湾を分布地に入れていないものもある。実際に本種が台湾にいるかどうかは現段階で筆者には良くわからない。

戦後に出た各種図鑑とか図説類には大体本種は図説されている。

村山醸造, 1950, 日本昆虫図鑑(p. 1320, f. 3810)。伊賀正汎, 1955, 原色日本昆虫図鑑, 甲虫編(pl. 32, f. 706, p. 103)。野村 鎮, 1963, 原色昆虫大図鑑Ⅱ(p. 77, 174)。1983, 岡島秀治, 海野和男, 1983, 日本の甲虫(p. 50)。黒沢良彦, 渡辺泰明, 1984,

甲虫(p.188, f.4)。黒沢良彦, 1965, 原色日本甲虫図鑑Ⅱ(pl. 75, f.10, p.414)。

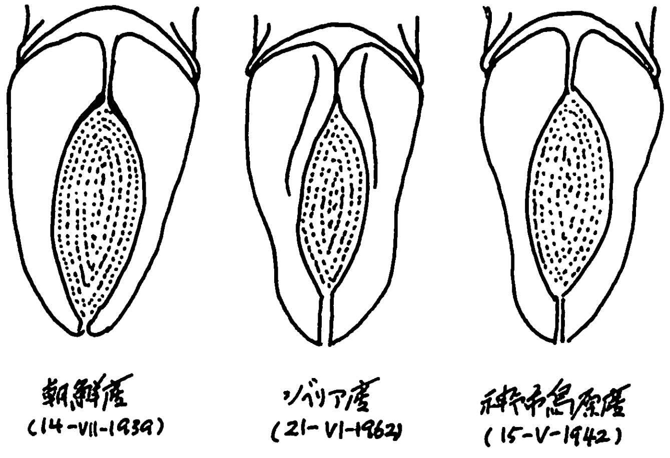
以上の図鑑類に出ている本種の属名については村山博士のものはAnthracophoraであるが他のものはPoecilophilidesとされているし最後の黒沢博士は日本産を原名亜種として大陸産は亜種P. r. sinensis (E. Saunders)になるとされている。

分布がシベリア東部, 蒙古, 中国, 朝鮮にも及んでいるから当然海外での文献もあるMedvedev, N. は1964年に"Fauna CCCP Vol. X, №5"の中で記載されている(p. 311-314, fig. 729-734)。朝鮮からはC. W. Kimの"Distribution Atlas of Insects of Korea"の中に朝鮮の詳しい分布が出ている。之を見ると朝鮮には可成り多くいる種のようであり採集した月は9月が一番多い。次いで6, 5, 8, 7月の順であり4, 11月の例もある。また寄主植物としてカシワ, コナラ属の樹となっている。

本種の生態に就いてはまだわからない点ばかりで日本では本種の生活史などに就いての報文はほとんど見られなかった。林博士は"成虫は5月ごろから出現し, 樹液に見られ幼虫はもろくなった朽ち木, または腐植物を食べるものと思われる"とのべられている(1975)。岡田俊典氏は兵庫県一の鳥居で採集された(川西市)1♂2♀を飼育され採集から死亡まで687, 766, 1059日と可成り長期間生きること。それと日中ほとんどおがくずの中にもぐってあまり上に出てこないと云うことを報告しておられる(インセクタリュウ Vol. 8, №10, p. 197, 1971)。夜間活動性なのかもしれない(始めに註記したが堀江氏の生態に就ての報告も最近発表されている, 1985)。

日本ではこの種の幼虫の図説も見られなかった。最近Zhang, Z. による"Economic Insect Fauna of China. Fasc. 28"(1984)の中に図説されている(pl. 29-30, pl. VI, fig. 80-83)。それによると南京付近では1年1代で幼虫越冬。成虫は4月下旬から9月初めまで見られ最盛期は5月となっている。橡樹液を喜んで食し熟した桃果などにも来ることがあると。幼虫は堆肥とか或は腐った朽ち木などで過すこともあるとのこと(1933年昆虫界 Vol. 1, №4, p. 438に坂本澄雄と云う人が漢口で本種を記録している。筆者の2年間の中国大陸での滞留期間中河南省信陽一武漢北方一で1度本種にお目にかゝったことがあった)。

本種の台湾産は黒色斑紋著しく薄く。前胸背上には僅かに3～4対の点状紋を有するのみにて中胸突起は少しく巾広くより円錐状を呈すと沢田博士はその特徴を記しておられる(1949)。黒沢博士も大陸産は細形で淡色, 黒斑も少ないとしておられる。筆者は玉貫光一氏に頒けて頂いたシベリア産1♂を所有しているが(21-VI-1962), 確に黒紋は非常に少く一見して日本産のものとは違って全体が赤褐色に見える。朝鮮産は2♂しか所有していないが(鉄原, 2♂, 14-VII-1939), こちらの方は日本産に割合近い斑紋である。強いて見た場合やゝ黒い斑紋が少いかなアと感じる。



アカマダラコガネ ♂ 交尾器

♂の交尾器は日本産と朝鮮産，シベリア産と基本的な違いはないようであるが，多少形態の違いはある（中国大陸のものはどんなのであろうか。Medvedev が図説したものは朝鮮産と同じである。1964）。もっと多くの標本を見，出来れば生態面での観察が出来ればまた違った問題点があらわれるかもしれないが亜種に別けて扱うことが妥当かどうかについては筆者には良くわからない。

最後に筆者の所有文献で本種の国内の記録地をひろって見た。本種もまづ同定を間違える様な種ではなく（属名の扱の違いはあっても），その意味では記録違いの心配はないわけであるが何分にも貧弱な文献（最近のように情報過多の時代にはとてもキメ細い記録の蒐集は不可能になっている）からの収録であるから大変心もとないのであるが大体の傾向はうかゞえると思う。それを見ると北の方の分布が大変少い様な気がする。青森県の記録も山谷氏が〞1935年少からず採集したことがある〃と云う記録だけで詳しいデータも無いし，それ以外の記録を見ることが出来なかった。シベリアあたりにいる種のようであるから本州の北部地方での分布もあってもよいのではないかと思う（朝鮮では可成り多いようである）（最近の報文では山形県下には割合記録があることがわかる）。また屋久島以南の分布が見当らない。台湾に産するとなるとその間の地点での産出も期待出来そうである。可成り広く分布している種であるが，いづれの地でも個体数の少い種の一つであるようだ。

アカマダラコガネの文献にあらわれた記録。

青森県（山谷文仁，1975 山昆虫誌 5(1)：5）

山形県米沢市外小野川温泉（中山周平，1941 昆虫界 9（84）：113－114），小国町岩井沢（山谷文仁，1975 山昆虫誌 5(1)：5）。米沢市：旧市内，東置賜郡：沖郷，上山市：

三吉山，蔵王：坊平，山形市：盃山，千歳山，滝山，雁戸山，東根市：乱川．小国町：岩井沢（桜井俊一，山昆虫誌　No.13, p. 20，1984）。

新潟県新津，柏崎，高田（土田繁也，1943 昆虫界 11(114)：439），新潟，佐渡島（中根猛彦，馬場金太郎，1960 長岡科学博物館報：9），胎内川渓谷下流（馬場金太郎，1972 飯豊山塊，胎内渓谷の生物：212）。

茨城県桜山，御前山（日置正義，1973 瑠璃星 1：3，26）。

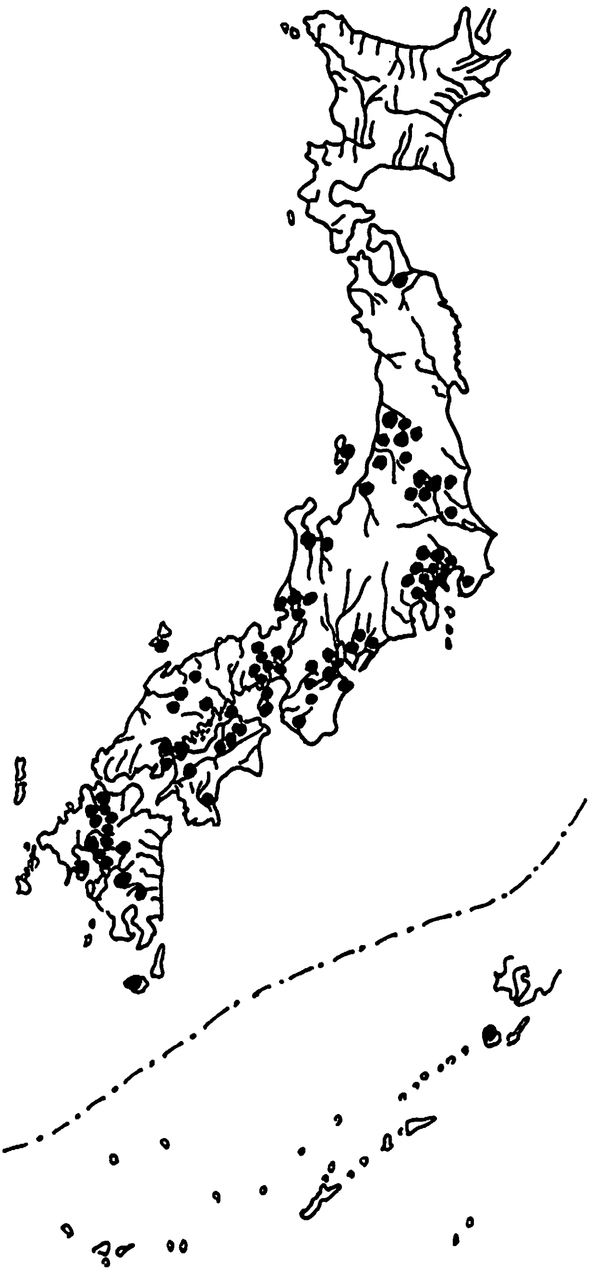
栃木県大田原市佐久山，中田原，金田八溝山麓（加藤　仁，1971 インセクト 22(2)：8），鹿沼市，宇都宮市，大田原市（稲泉三丸，1972 栃木県の動物と植物：469）。

千葉県館山（市川敏之，月刊むし No.9, p.31, 1971）。

東京都（Schonfeldt, 1877.,新島，木下，1922.,加藤，1934），芝（平山，1937，1940.，松岡勝輝，1938 Nippon Kontyu 1(1)：33），武蔵野（加藤，1938）。

神奈川県鎌倉．逗子（青柳應之介，1939 昆虫界 7(25)：421），横須賀市（柴田泰利，1955 新昆虫 8 (3)：46），大船公園（井本憲邦，甲虫ニュース(1)：3，1969），三浦半島；大楠山，衣笠；湘南，大船公園，秦野市震生湖，小田原，箱根，小田原市水の尾（平野幸彦，1981 神奈川県昆虫調査報告：295），横浜市金沢区，葉山町，横須賀市（大場信義ほか，1981 Sci. Rep. Yokosuka City Mus. 28：50）。

山梨県日野春（市川敏之，1972 月刊むし 12：32-33），韮崎（堀江英年，1985 月刊むし 175：38）。



アカマダラコガネの国内記録地点

富山県東砺波賀東別所，高岡市二上山（北村征三郎，1982 Amica 27：95）。

愛知県名古屋市内（穂績俊文，1958 佳香蝶 10(34)：9），石巻山，鳳来寺山（松野更一・松野光恭，1975 三河の昆虫 12/13 ：49），石巻山自然歩道，豊川市（松野更一，1973 三河の昆虫 (4)：14）。

福井県（井崎市佐衛門，1935 昆虫界 3(13)：19，福井県博物同好会々報6：22），福井，足羽，丹生，遠敷（福井県博物学会，1938）。

三重県湯の山，水沢（山下善平ほか，1963 鈴鹿山脈自然科学調査報告書：251），鵜方（山下善平ほか，1965 志摩の自然：13），平倉（山下善平ほか，1968 三重大演習No.1：60），津市長谷山（松井弘見，1984 ひらくら 28(1)：7），三重郡菰野町鳥峰，伊勢市朝熊山（生川展行ほか，1984 ひらくら 28(4)：51）。

奈良県奈良，郡山，春日，吉野郡（今立源太郎，1954 Amateur Entomology 5(1/2)：10）。

和歌山県（後藤 伸，1950 紀州昆虫2(3)：5）。

京都府京都市内岩倉北東坂原地区（小島国夫，1972 昆虫と自然 7(2)：33），桧峠（塚本珪一，1984 京都の自然，p.98）。

大阪府箕面（伊賀，1955・ 後藤光男，1965，1967 箕面山の動物相調査：176，143），東能勢村吉川峠（仲田元亮，1970 能勢の昆虫（甲虫）：34，1978，能勢の昆虫Ⅰ：11 ，1982 能勢の昆虫 甲虫の部 上巻：307）。

兵庫県（高橋寿郎，1984 てんとうむし No.9：8）。

鳥取県倉吉市米田（河本哲至・井上敏明，1978 すかしば 10：7）。

岡山県南部（1978，岡山県の昆虫：129）。

広島県呉市灰ヶ峰（保田信紀，小阪敏和，1965 広島虫報 4：132），広島市，高野町新市（中村慎吾，1966 比和科学博物館研究報告 10：9），宮島（小阪敏和，1973 広島虫報，12：81），高野町，比和（中村慎吾，1977 比和の自然：268）。

島根県隠岐島（門脇久志，1983 すかしば 20：7）。

香川県小豆島（林 匡夫，1956 続・小豆島の自然：16）。

徳島県麻植郡鴨島村，名西郡神領村上角，南上角鉢ノ木，高根（三宅義一ほか，1958 昆虫科学 7：30），川島町（矢野俊郎， 1961 松山昆虫同好会時報 16：17）。

高知県大方町入野（京浜昆虫同好会，1959 新しい昆虫採集 下：323）。

愛媛県喜多郡中山（森川国康，矢野俊郎，1941 昆虫界 9(93)：765，矢野俊郎，1961 前出：17）。

福岡県小倉足立山（三宅義一，1956 北九州昆虫趣味の会々誌 6：5），九住山（三宅義一，

1957 北九州の昆虫　4(1)：27），鞍手郡宮田町（三宅義一，1957 北九州の昆虫　4(3)：13），彦山（神谷寛之，1959 彦山昆虫目録　Ⅱ鞘翅目：26。高倉康男，1961 生物福岡　1：8），足立山，四倉山，能古島，宮田・英彦山，浮羽郡水縄，熊渡山，大牟田，香春町（高倉康男，1978 生物福岡　18：28），足立山（中尾進治，1979，北九州の昆虫　26(1)：24），馬見原（山脇好之，1984 北九州の昆虫　30(3)：172）。

長崎県島原市千本木，新山，眉山（今坂正一・越智輝雄，1979 北九州の昆虫　26(2)：63）。

熊本県熊本市黒髪町，立田山，飽託郡小山山，阿蘇郡久木野村，益城郡国見山，人吉市村山，球磨郡山江村山田（大塚　勲，1962 北九州の昆虫　9(2)：27），市房山（小林裕和，1978 甲虫ニュース　40：6）。

宮崎県霧島山（磯崎恵明，1968 タテハモドキ　3：34.，清水　蒸，1969 霧島山総合調査報告書：264）。

屋久島（神谷一男，1938 あきつ　1(3)：99。三宅義一，1956 北九州昆虫趣味の会々誌　5：16.，中根猛彦，1984 屋久島原生自然環境保全地域調査報告書；608）。

以上長々と駄文を書いてきたがまだ問題が無いわけではなく，今後も引きつゞき調べを継続して行きたいものだと考えている。

(Aug. 1985)

宝塚大橋の照明燈で採集した蛾（続報その4）

新　家　　勝

Ⅰ　はじめに

今回は1984年中の採集品について報告させていただく。今回もまた，採集場所は「宝塚市」を省略して記載する。

Ⅱ　採集結果

1. Noctuidae　ヤガ科

(1) Heliothis armigera Hübner　オオタバコガ

1984. 9. 13　南口2丁目

(2) Ochropleura plecta glaucimacula Graeser　マエジロヤガ

1984.9.5　武庫川町

(3) Leucania consanguis Guenée　マメチャイロキヨトウ

1984.9.25　南口2丁目

(4) Leucania pryeri Leech　ウラギンキヨトウ

1984.8.24　南口2丁目

(5) Leucania radiata stellata Hampson　フタテンキヨトウ

1984.8.19　武庫川町

(6) Leucania nohirae Matsumura　ノヒラキヨトウ

1984.9.19　武庫川町

(7) Lithophane ustulata Butler　ハンノキリガ

1984.12.5　南口2丁目

(8) Apamea repetita Butler　ヒメカバマダラヨトウ

1984.7.14　武庫川町

(9) Diarsia deparca Butler　コウスチャヤガ

1984.6.1　武庫川町

(10) Cosmia camptostigma Ménétriés　シラオビキリガ

1984.10.11　武庫川町

(11) Chasminodes unipuncta Sugi　ヒメギンガ

1984.8.29　武庫川町

(12) Earias pudicana Staudinger　アカマエアオリンガ

1984.6.25　南口2丁目

1984.10.11　武庫川町

(13) Catocala connexa Butler　アミメキシタバ

1984.9.15　南口2丁目

1984.9.20　武庫川町

(14) Enmonodia vespertilio Fabricius　カキバトモエ

1984.8.23　南口2丁目

(15) Lygephila maxima enormis Butler　クビグロクチバ

1984.9.11　南口2丁目

(16) Aventiola pusilla Butler　クロハナアツバ

1984.9.14　武庫川町

(17) Dichromia trigonalis Guenée　タイワンキシタアツバ

1984。9。21　武庫川町

2. Notodontidae　シャチホコガ科

(1) Tarsolepis japonica japonica Wileman et South　ギンモンスズメモドキ

1984．8．9　武庫川町

(2) Suzukia cinerea Matsumura　オオウグイスシャチホコ

1984．9．21　武庫川町

3. Lymantridae　トクガ科

(1) Dasychira nachiensis Marumo　ナチキシタドクガ

1984。 10．5　南口2丁目

(2) Euprotics curuata Wileman　マガリキドクガ

1984．9．21　武庫川町

4. Geometridae　シャクガ科

(1) Comibaena dericatior Warren　クロモンアオシャク

1984．9。25　南口2丁目

(2) Xanthorhoë saturata Guenée　フトジマナミシャク

1984．9．20　武庫川町

(3) Gandaritis agnes agnes Butler　キガシラオオナミシャク

1984。6．27　武庫川町

(4) Ecliptopera decurrens ilitata Wileman　セスジナミシャク

1984．7．1　武庫川町

(5) Eustroma melancholica melancholica Butler　ハガタナミシャク

1984．9．25　南口2丁目

(6) Rhynchobapta flaviceps Butler　マエキオエダシャク

1984．6．27　武庫川町

1984．7．12　武庫川町

(7) Semiothisa shanghaisaria Walker　シャンハイオエダシャク

1984．9．14　武庫川町

5. Pyralididae　メイガ科

(1) Galleria mellonella Linné　ハチノスツヅリガ

1984．9．6　武庫川町

(2) Nephopteryx intercisella Wileman　ヤマトマダラメイガ

1984．7．22　武庫川町

(3) Herculia glaucinalis Linné　フタスジシマメイガ

1984．10．18　武庫川町

(4) Bostra indicator Walker　ツマグロシマメイガ

1984．7．12　南口2丁目

(5) Nymphula interruptalis W.Pryer　マダラミズメイガ

1984．10．1　武庫川町

(6) Crocidophora evenoralis Walker　セスジノメイガ

1984．6．18　武庫川町

(7) Micractis varialis Bremer　フキノメイガ

1984．9．3　武庫川町

1984．9．15　武庫川町

6. Tortricidae　ハマガキ科

(1) Archips piceana Linné　マツアトハマキ

1984．6．21　武庫川町

Ⅲ まとめ

今回報告する１９８４年中の採集品は，ヤガ科１７種，シャチホコガ科２種，ドクガ科２種，シャクガ科７種，メイガ科６種，ハマキガ科１種の計３５種であり，一昨年の２６種に比べてかなり多かった。6月1日にコウスチャヤガを採るまでは全く新しいものが得られなかった。今年は１０種も採れればよい方で，もうだめかと思ったのであるが，その後盛り返すことができた。6年間も同じ所で採集をしていながら，やっと気付いたのであるが，植込みのサザンカ，アベリア，ツゲなどに小型の蛾が多数，隠れていた。

前記種のうちマガリキドクガ，ナチキシタドクガおよびギンモンスズメモドキは注目すべきものであろう。マガリキドクガは採集記録が非常に少なく（原色昆虫大図鑑Ⅰおよび原色日本蛾類図鑑による），ナチキシタドクガは六甲山系に産する美しく稀なものの一つであり（六甲の自然による），またギンモンスズメモドキは六甲山系では絶産かといわれているものである（六甲の自然による）。ただし，ギンモンスズメモドキは通行人に踏みつぶされていたもので，右前翅だけしか保存できないのが残念でならない。その他，１９８３年に採集済のものではあるが，ヤマトホソヤガを１頭１９８４．１１．7に再び採集した。１９８１年に採集したツゲノメイガは，ここのツゲで生育していると思われるのに，その後なかなか見付からなかったが，植込みの中から多数叩き出すことができた。

今年は最初から蛾を植込みから叩き出し，もっと多く新たなものが採集できることを願っている。

Ⅳ 参 考 文 献

北隆館　原色昆虫大図鑑Ⅰ

保育社　原色日本蛾類図鑑

神戸新聞出版センター　六甲の自然

明石市でヒメタイコウチ見つかる

三 宅 隆 三

１９８５年８月２４日　神戸大丸百貨店において行われた神戸生物クラブ主催の「作品鑑定会」にヒメタイコウチが持ちこまれた。原田貴晴（神戸市立桜の宮小学校５年）君で，８月６～７日に採集したという。生きたままの２匹が持ちこまれたが，２日間で２８匹を捕えている。採集場所が定かでなかったので，８月３１日に貴晴君と彼の父親の２人にご案内いただいたところ，明石市大久保町松蔭にある〃中笠池〃であった。この日も，貴晴君が６匹，私が２匹の計８匹を採集した。貴晴君は，ザリガニとりに来ていて偶然に見つけたとのことである。以下の点で重要と思われるので報告する。

ヒメタイコウチは，愛知県を中心に濃美平野の各地によく見つかっているが，日本での最初の発見地が西宮市であり，兵庫県には縁の深い昆虫の一つである。また，生息地が局限的で神戸市西区櫨谷町が西限であったので，こん回の発見は，それを修正するものとなり大きな意義がある。

明石市を東にして東播，中播地区には多くのため池があり，発見例が続くように思われる。ヒメタイコウチは，氷河時代に朝鮮半島を経て日本に侵入したと考えられていることを合わせると，生息域は，さらに西に広がるものと予想できる。

ヒメタイコウチの分布域と生態に関する文献

三 宅 隆 三

ヒメタイコウチが明石市内で見つかった。神戸市西区櫨谷が西限とされていたのが，今回の発見で分布域はさらに西に広がった。ところで，ヒメタイコウチを見つけても，分布域が局限的である

がためか図鑑に載っている例が少なく，同定に困る。また，生態（生活史）を扱った文献にふれる機会もないので，飼育にも難儀すると聞く。そこで，筆者が持つ，あるいは承知している文献をもとに市（町）名をあげて現在の分布域を明らかにしておきたい。また，飼育を行う場合の参考になる文献を紹介することにする。

〈分布域に関する資料と分布域〉

	採集場所	採集年月	採集者	文献		
				報告(発行)年	紙誌名	報告者
1	兵庫県武庫郡甲東園	1933. 5	戸沢信義	1933	関西昆虫雑誌 1巻2号	江崎 悌三
2	愛知県西尾市八ツ面町	1935. 1	山田満寛	1935	昆虫界3巻16号	山田 満寛
3	名古屋市昭和区	1937. 5	服部広吉	1937	昆虫研究2号	服部 広吉
4	名古屋市中川運河附近	1937. 5	平手雑二	1937	昆虫界5巻45号	服部 広吉
5	愛知県安城市	1949.	神谷 平	1954	中部昆虫同好会報1号	鈴木 吉夫
6	愛知県岡崎市学大農場	1953. 5	神谷一男	1954	同 上	同 上
7	愛知県岡崎市岩津町	1953. 5	鈴木吉夫	1954	同 上	同 上
8	愛知県豊明町	1953. 8	鈴木吉夫	1954	同 上	同 上
9	岐阜県瑞浪市湊ヶ洞	1953. 5	佐藤正孝	1955	中部昆虫同好会報7号	佐藤 正孝
10	愛知県岡崎市竜泉寺	1954. 9	佐藤正孝	1955	同 上	同 上
11	三重県四日市市垂坂山	1956. 5	石田昇三	1958	ひらくら24号	大川 親雄
12	愛知県西尾市小間町※1	1959. 8	山田満寛	1960	西尾昆虫同好会報 2巻1号	山田 満寛

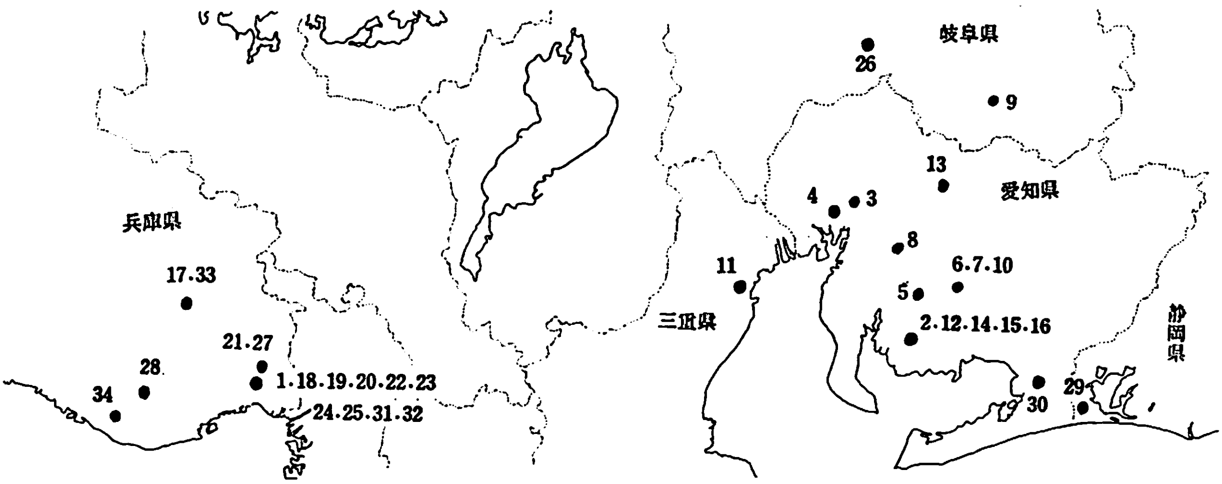
※1　同町については他に次の採集例が1967 ヒメタイコウチ綜説　山田満寛で報告されている。

1962. 7 宮本正一，1962. 10 山田満寛　1966. 10 李　昌彦，長谷川 仁，大川親雄，奥谷禎一

13	愛知県瀬戸市品野町	1960. 8 1961. 8	田中義信	1963	Nature Study 9巻2号	田中 義信
14	愛知県西尾市八ツ面町	1962. 7	宮本正一	1967	ヒメタイコウチ綜説	山田 満寛
15	愛知県西尾市米津町	1967. 5	山田満寛	1967	同 上	同 上
16	愛知県西尾市中原町， 小島町，西浅井町， 東浅井町，上羽角町， 下羽角町，下永良町， 貝吹町，駒場町， 家武町，室町，善明町， 平原町			1973	西尾市史史料Ⅳ （八ツ面町，小間町，米津町以外の西尾市内の採集地が挙げられている）	同 上
17	兵庫県三田市沢谷湿原			1975	兵庫県の自然 5巻2号	奥谷 禎一

18	兵庫県西宮市甲山湿原	1976. 8	三宅　隆三	1976	兵庫県の自然6巻2号	三宅　隆三
19	兵庫県西宮市大社町	1976. 8	塩崎　裕二	1976	同　上	同　上
20	兵庫県西宮市広田町	1976. 8	黒川　晴介	1976	同　上	同　上
21	兵庫県宝塚市鹿塩1丁目	1976 8	藤井　敏一	1976	同　上	同　上
22	兵庫県西宮市上ケ原6番町	1976. 9	亀田　信	1976	朝日新聞(9月27日)報道※2	
	※2　1969年頃に同所で採集したこともあるとの内容になっている。					
23	兵庫県西宮市岡田山	1977. 8	神戸女学院大自然愛好会	1977	神戸新聞(8月27日)報道	
24	兵庫県西宮市上ケ原3番町，高座町，上甲東園1丁目獅子ケ口，日野町	1977. 4 ～ 1978. 4	西宮市立西宮高校生物部	1978	兵庫県の自然　会員のひろば4号	三宅　隆三
25	兵庫県西宮市甲東園	1977. 3	足立　芳樹	1978	昆虫と自然13巻1号	足立　芳樹
26	岐阜県関市稲口柳洞	1979. 4	高井　泰	1979	昆虫と自然14巻14号	高井　泰
27	兵庫県宝塚市宝塚ゴルフ場周辺			1980	宝塚市史7巻	奥谷　禎一
28	神戸市垂水区櫨谷			1980	同　上	同　上
29	静岡県湖西市梅田	1980. 9	井上　智雄	1981	昆虫と自然　16巻2号	井上　智雄
30	愛知県豊橋市岩崎町	1966. 6	井上　智雄	1981	同　上	同　上
31	兵庫県西宮市神園町	1982. 6	神谷　潤，矢間清次，島　孝次	1982	昆虫と自然　17巻14号	久保　和弘
32	兵庫県西宮市西田町	1983. 4	福田　崇	1983	神戸新聞(4月23日)報道	
33	兵庫県三田市上相野	1985. 5	本田　充穂	1985	神戸新聞(6月25日)報道	
34	兵庫県明石市大久保町	1985. 8	原田　貴晴	1985	きべりはむし13巻2号(予定)	三宅　隆三

ヒメタイコウチが見つかった市町を地図上にプロットすると図のようになる。兵庫県と東海地方の4県(三重県，愛知県，岐阜県，静岡県)の計5県である。これらの中間に位置する府県での発見がないのが不思議なほどに，互いに離れた位置になっている。明石での発見は，さらに西への分布域の広がりを感じさせるように，これらの中間の府県でも発見される可能性は多分にあると思われる。生態に関する文献のいくつかには，きれいな水の流れにしか住めないように記されてはいるが，経験から言えば，必ずしもそうではない。常に湧水があることだけが分布地点に共通していた。家庭排水が流れこむ側溝でもけっこう生息している。成虫も飛翔がないので，どんどん広がる仲間ではないにしても，これら中間の地域で，なぜ生息していないのかの合理的説明はむつかしい。むしろ，きっと生息しているはずだという思いがする。



〈生態に関する文献〉

飼育の際に大切なことは水を深くしないことである。1～2㎝でよい。砂で陸をつくり，ミズゴケを水際に少し敷くのも良い。餌は陸上を歩くダンゴムシやハサミムシが便利で飼育容器に放りこんでおけばよい。水生昆虫ではあるが深いとおぼれる。メダカなどを捕えて餌にすることもあるが，あまり泳がず陸に上っている方が多い。

	著者名	標　　　題	紙　誌　名	発　行　年
1	山田　満寛		ヒメタイコウチ綜説	1967
2	山田　満寛	西尾市の半翅目	西尾市史　史料Ⅳ	1973
3	奥谷　禎一他	低地湿原とヒメタイコウチ	新・兵庫の自然	1976
4	岡田　俊典	ヒメタイコウチの飼育から	インセクタリウム	1976
5	河路　掛吾	ヒメタイコウチの観察アルバムⅠ，Ⅱ	佳香蝶	1976，1977
6	伴　　幸成他	ヒメタイコウチの生活史	昆虫と自然	1980
7	三宅　隆三	ヒメタイコウチの採集と飼育	採集と飼育	1979
8	三宅　隆三	ヒメタイコウチの飼育例	昆虫と自然	1980
9	三宅　隆三	ヒメタイコウチのふ化	昆虫と自然	1980
10	奥谷　禎一	動物編（昆虫類）	宝塚市史（7巻）	1980

ヨコヅナサシガメ、ヨツボシケシキスイを捕食す

新家　　勝

サシガメ類が食肉性であることはよく知られており，ヨコヅナサシガメが鱗翅類の幼虫を捕食することは本誌にも紹介されている（第9巻第1号）。庭のアラガシに放した本種の成虫がブランコケムシを捕食するのを筆者は目撃しているが，ヨツボシケシキスイの捕食を初めて目撃したので報告させていただく。

日時　1983. 4. 30　14:30

場所　川西市芋生

状況　クヌギの古木（台場櫟）に群棲していたうちの1頭が，口吻の先に黒いものをぶら下げていた。よく見るとヨツボシケシキスイであり，肛門に口吻を突き刺されて死んでいた。ブランコケムシなど体の軟いものならどこえでも口吻を突き刺すことができるが，甲虫類など体の大部分が固い相手に対しては軟い部分である肛門や関節などを狙うものと思われる。どのようにして口吻を突き刺すのか，その瞬間を見なかったのが残念である。

宝塚でのトンボ5種の採集および目撃記録

新家　　勝

注目されることが多いトンボ5種について宝塚市内における最近の採集および目撃記録を報告させていただく。

(1) Stylogomphus suzukii Oguma　オジロサナエ

1984. 7. 21　中山寺二丁目，足洗川谷　（♂1頭採集）

羽化間もない未熟虫であり，水辺の草叢からふらふらと飛びあがっ。この谷で生育したものであることは確実である。市内では立合新田，大原野等西谷地区の山間部に産することが報告されているが（宝塚のとんぼ，1982），市街地に極めて近接した場所での記録は初めてと思われる。雲雀丘，山本から川面にかけての他の谷川にも産することが予想される。

(2) Ictinogomphus clavatus Fabricius　ウチワヤンマ

1979. 7. 15　売布四丁目，菰池　（♂1頭採集）

1984. 6. 30　安倉北四丁目，安倉上池　（2頭目撃）

1984. 6. 30	中山寺二丁目，足洗川谷	（1頭目撃）
1984. 7. 7	安倉北四丁目，安倉上池	（1頭目撃）
1984. 7. 21	安倉北四丁目，安倉上池	（1頭目撃）
1984. 7. 30	売布四丁目，菰池	（6頭目撃）
1984. 7. 30	伊丹市荒牧，菰牧池	（1頭目撃）
1984. 8. 5	売布四丁目，菰池	（4頭目撃）
1984. 8. 5	中筋一丁目，辻ヶ池	（2頭目撃）
1984. 8. 15	売布四丁目，菰池	（2頭目撃）

市内では，小浜での記録があり，西谷方面の池でよく見られることが報告されている（宝塚のとんぼ，1982）。中山，売布，安倉から伊丹市荒牧にかけても多いようである。

本種は体を水平にして棒の先や木の枝先にとまり，腹端をほぼ垂直に上げる奇習がある。中筋一丁目辻ヶ池でコンクリート壁の上面に伏せるようにとまっているのを初めて目撃した。珍しいことなので，しばらく見守っていたが，遂に腹端を上げなかった。

(3) Aeschnophlebia longistigma Selys　　アオヤンマ

1983. 5. 29	中山寺二丁目，足洗川谷	（1頭目撃）
1983. 6. 26	美座一丁目，武庫川河川敷	（1頭目撃）
1983. 7. 3	安倉北二丁目，安倉中ノ池	（3頭目撃）
1983. 7. 10	〃　〃	（2頭目撃，♂1頭採集）
1984. 6. 23	安倉北四丁目，安倉上池	（2頭目撃）
1984. 6. 30	〃　〃	（7頭目撃）

市内では小浜での記録があり，仁川で多数見られることが報告されている（宝塚のとんぼ，1982）。安倉上池は，ほぼ全周にヨシが生えているが，殊に木立ちになっている北岸にはヨシが多数生えている浅瀬があり，本種の絶好の棲息地になっている。最盛期には同時に数頭がヨシの間を縫うように飛んでいるのを見ることができる。安倉中ノ池も，よく似た環境であったが，北岸に自動車道路ができたので1984年には見られなくなってしまった。

(4) Epitheca marginata Selys　　トラフトンボ

1984. 6. 9　御殿山一丁目　（1頭捕獲）

中山山系の台地にある，住宅に近い墓場の縁で，木立ちの空間を摂食飛行していた。本種が育つような池は，付近に見当らない。大原野方面に多いことが報告されており（宝塚のとんぼ，1982），大原野に近い玉瀬や切畑の池で採集し，また度々，目撃している。

(5) Somatochlora viridiaenea atrouirens Selys　　オオエゾトンボ

1983. 9. 18　境野　（♀1頭採集）

1984. 8. 11　波谷　（♂1頭採集）

渋谷のものは，生瀬橋から十万辻峠へ通じる路上に落ちていたもので，自動車と衝突したらしく，体を破損していた。切畑で本種らしいものを時々，目撃している。切畑の生息地は,ゴルフ場造成のため失われたとのことであるが（宝塚のとんぼ，1982），知られない生息地がまだ市内に残っていると思われる。

4. 参考文献

(1) 宝塚市文化財調査報告第１６集　宝塚のとんぼ　１９８２　宝塚市教育委員会

(2) 近畿のトンボ　1984　関西トンボ談話会

アオドウガネの食草についての報告

新家　　勝

Ⅶ．２，１９８５，　宝塚市高司五丁目の武庫川堤防上で，２頭のアオドウガネがオオバイボタの花を食害していた。雨中のことであり，いずれも黄褐色の糞を垂れ流していた。分布記録の証拠として１頭を採集し，標本にした。また，翌Ⅶ．３，１９８５，前記場所とは道路を挟んで向い側の宝塚市美幸町の武庫川堤防上で１頭がやはりオオバイボタの花を食害していた。全く同地域であるため，採集しなかった。

三木市でのアオマダラタマムシの採集例

森　田　真　澄

アオマダラタマムシNipponobuprestis amabilis Snellen van Vollehovenを採集しているので報告する。

三木市増田，１ex．１４－Ⅷ－１９８５.　　筆者採集。

この個体は体長２４㎜の金緑色の光沢を放ちきらびやかな外貌を誇っている。

午前１１時３０分頃，樹高８～９m，樹幹部周囲140㎝のアカガシQuercus acute Thunb．の虚の中（地上から1．5m）で静止していた。

尚，この虚は地上の樹幹部全体に渡って筒抜けであったが，葉は青々と茂っていた。

コカブトムシを神戸市多井畑で採集

内 田 雅 一

多井畑へは１９８０年から毎年採集に行っているが，コカブトムシを初めて採集することができたので報告したい。

１９８５年，５月１９日，PM3:00頃，晴天無風，住宅地域の近くの雑木林を200m程入った所にあるクヌギの木の地面から２０～３０㎝の高さにある，直径約５０㎝の洞の中の枯れ葉を取り除いてみたところ，コカブトムシ１♂の完全な個体を発見し採集した。（この付近には，まだ少数の個体がいると思われる。）

コカブトムシ　Eophileurus chinensis Falaermann 1♂，神戸市多井畑 19-V-1985 体長２１㎜。

ツノブトホソエンマムシ神戸市内で採集

（兵庫県甲虫相資料・163）

髙 橋 寿 郎

日本産のホソエンマムシ科は５種とも４種とも云われている（N. itoi とN. osoriiceps は同一種ではないかとのこと，久松，1985）。 この４種ともLewisが1885年″On a new genus of Histeridae (Trans. Ent. Soc. Lond., pp. 331–334)″の中に記載された種である。三輪勇四郎博士は1934年″Niponiidaeの解説″と題する大変有益な解説論文を発表されこの仲間を図説して下さった（昆虫界，Vol. 2, №11, pp. 476–486, pl. 81）．一般的には小さい種の関係から余り関心も示されなかった様な気もする。図鑑では原色昆虫大図鑑(1963)で２種，原色日本甲虫図鑑Ⅱ (1985)で３種図説されている。

兵庫県下からは従来１種ヒメホソエンマムシNiponius osorioceps のみが知られているだけであった (Parnassius, №29, 1983)。

１９８４年６月２１日神戸市内烏原貯水池畔の土留材の上を歩行中のツノブトホソエンマムシ N. obtusiceps Lewis, 1885 1♂を採集した。本種はLewisが″Oyayama (Higo), Ishikari river (Yezo)″を産地に記載された種である。（l. c., p. 334, t. 8, f. 20-23)。

原記載以後図説としては三輪博士のものがあり（l. c., p. 484, pl. 81, f. 7），林 長閑博士が生態について図説されたものがある（昆虫と自然 Vol. 9, №10, p. 29, グラビア 1, 1974），更に久松定成氏による検索表もある（l. c., p. 219, 1985）。分布は北海道，本州，九州でキクイゾウムシ類の孔道で発見されるとある。兵庫県下からは始めての記録になる。ホソエンマムシ N. impressicollis Lewis の方も県下で発見される可能性は充分ある。

兵庫県におけるセスジナガキマワリの分布

（兵庫県甲虫相資料・164）

高橋寿郎

最近今坂正一氏は日本におけるハネナシセスジキマワリとセスジナガキマワリの分布に就いて発表しておられる（月刊むし №172, p. 23-25, 1985）。それによると両種共兵庫県での記録が無い。そこで手許の筆者の標本を調べて見るとセスジナガキマワリ Strongylium cultellatum Mäklin が次の通りあった。明石市明石公園産 1♀, 7-VII-1979。神戸市烏原産 1♀, 17-VIII-1969, 1♀, 29-VIII-1980。また兵庫県下での本種の記録は川西市見野，横地〔仲田，1970, 1978, 1982〕。多紀郡篠山町〔山本，高橋，1962〕，城崎郡城崎〔高倉，1979〕とある。従ってこれ等を見る限り県下には広く分布している種のようである。採集の時期からして7月中旬頃から8月終り頃までに活動しているようにも思われる。ところで兵庫県下にはハネナシセスジキマワリ S. apterum Nomura et Yamazaki の記録もある（出石郡出石町城山．高橋，1963）。本種の方は大体九州を中心に分布している種のようで近畿地方での記録はほとんど知られていないが今坂氏によると福井県の雄島，青葉山，大島半島，京都府冠島，隠岐などの記録も紹介されている。兵庫県下で両種が共存しているのかどうかこれから調べて見たい点でもある。

（AUG. -1985）

キイロテントウゴミムシダマシ美嚢郡吉川町にて採集

(兵庫県甲虫相資料・165)

高橋寿郎

キイロテントウゴミムシダマシLeiochrodes masidai Nakane, 1963は中根猛彦博士がMiho, Naka-gun, Shimane(多分島根半島の美保関町の美保湾に面した海岸線)産で記載された種である(Fragm. Col. pars. 6, p. 26, 1963)。同時に同博士は原色でも図説しておられる(原色昆虫大図鑑 第2巻, pl. 110, f. 16, p. 220, 1963)。黄赤褐色で光沢があり割合顕著な種であるが従来兵庫県からの記録は無かった。1985年7月11日美嚢郡吉川町で薪から1頭採集出来たので此処に報告しておく。

本種の分布は本州とのみであったが最近高井 泰氏は福岡県黒木町から九州からの始めての記録をしておられる(月刊むし No.173, p. 36, 1985)。

近似のクロテントウゴミムシダマシL. convexusの方も県下での記録が案外と少い(仲田元亮氏の川西市大和の記録があるがそれ以外では筆者が採集した川辺郡猪名川町槻並1ex., 2-VII-1978, 神戸市烏原 2exs., 30-VI-1984があるだけである)。 (SEP. -1985)

県関係文献紹介

○ 河上仁之:伊丹市昆虫目録(1, 2)

伊丹の自然 1:22-32, 1984. 2:27-32, 1985.

伊丹市で1965年以後に観察例のある昆虫をまとめると474種あるとしてその目録並びに代表グループの解説をされている。(1)で甲虫は39科202種が記録され, (2)で9科16種が記録されている。また(2)では直翅目についての観察記録が報告されている。

この"伊丹の自然"は昆虫以外の報文も多くあり仲々立派な刊行物である(第1号 48p. 第2号56p.)。本書を御恵与下さった伊丹博物館 坂根隆治氏に厚く御礼申しあげる。

○ 住宅・都市整備公団関西支社:

東条地区開発に伴う環境影響評価現況調査報告書 252p. (1984).

一般に手にすることのむづかしい文献である。昆虫については4～7月の間に7回調査して

６５科２８１種を記録したものが含まれている（昆虫調査者・高橋寿郎，蜂谷幸雄）。

○　奥谷禎一：大岡山自然環境調査報告　50p.（1985）（園田学園）

奥谷博士が中心になって園田学園の依頼により同園の大岡山グリーンキャンパスを調査されたもので昆虫については但馬むしの会の皆さんが手伝われている。大変貴重な文献でこの文献を御恵与下さった奥谷博士に厚く御礼を申しあげる。

○　（仮称）押部谷パブリックゴルフ倶楽部建設事業

動物調査報告書　91p.（1985年3月）パシフイックコンサルタンツ株式会社刊。

神戸市押部谷町木津地域での１９８４年に調査を実施した動物関係の結果をまとめたものである。

鳥類，昆虫類，水生小動物，プランクトン等の調査結果で昆虫類については高橋寿郎，蜂谷幸雄が担当した。一般に仲々見ることが出来ない文献の１つであるが，この様に刊行物として出版されると後々の資料となり役に立つ。昆虫はp. 18−43，72科218種記録してある。

県内同好会誌・連絡誌　（１９８５）

兵庫　陸水生物　（兵庫陸水生物研究会）

No.１８　（1985．5）．　No.19　（1985．7）

姫昆サロンニュース　（姫路昆虫同好会連結誌）

No.72〜75　（1985．9）

IRATSUME

No.8/9　（1985．5）

編　集　後　記

○　今年は雨の日の連続の梅雨でした。その後こんどは猛暑の連続余り採集条件は良くなかったかと思いますが皆様方は如何でしたでしようか。

○　本年も神戸市内，三木市内，美嚢郡吉川町の３ヶ所で環境調査のお手伝をさせて頂きました（４～９月の間）。お蔭様で新知見も得ることが出来ました。

○　７月３０日兵庫県自然史系博物館の拡大構想委員会が県民会館で開催され出席させて頂きました。博物館の建設の方はこの調子ではまだまだ先のことのようです。その間阪ロコレクションの整理，資料集めのための県下昆虫相調査の開始等が桃井節也博士の方からお話が出ておりました。

○　原稿難，資金難は深刻です。Vol. 14，No.1は1986年５月発行を予定しております。長短にかゝわらず御投稿の程を。会費の方も宜敷く。　(T.)

きべりはむし　第１３巻第２号

昭和６０年１１月２５日発行

発行：兵庫昆虫同好会

〒652　神戸市兵庫区氷室町１丁目４４　高橋寿郎方

振替　神戸７－26646

印刷：㈱　文　尚　堂

〒652　神戸市兵庫区下沢通３丁目４－11